



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	URAの活動範囲・認知度向上に関する課題解決のためのネットワーク形成の提案
Author(s)	澤田, 真理子; 森岡, 和子; 貞許, 礼子
Description	RA協議会第5回年次大会 : URAシステムの定着に向けて～構想・越境・創発～. 2019年9月3日(火)-9月4日(水). 主催: リサーチ・アドミニストレーター協議会. 電気通信大学. 東京都調布市
Issue Date	2019-09-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/96175
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	2019RA_P-9-1.pdf



北海道大学文学研究院では、若手研究者支援として、大学院生からポスドクまで若手研究者を対象に、セミナー開催や助成金等の情報提供、研究成果に関する発表支援を行っている。本支援業務では、文学研究院の部局URAだけではなく、既に支援を受けた経験のある若手研究者や他部局のURA、研究支援担当との情報共有を積極的に行うことで、支援対象者へのより広い範囲での認知や部局に留まらない支援活動の考案につなげている。本報告では、北海道大学文学研究院での若手研究者支援を事例に、部局内および大学内での支援制度やURAが携わる支援活動範囲と支援内容の認知度についての現状と課題を情報共有するとともに、URA業務の支援対象者や他部局の研究支援担当とのネットワーク形成による課題解決を提案したい。

若手支援の現状

大学院生支援

旅費支援（2019年度予算額350万）

国際会議や全国学会での研究発表やフィールドワークの研究調査に必要な旅費のうち交通費を支援。

校閲費支援（2018年度支援額38.3万円）

国際会議や国際学術誌、英文ジャーナル等への日本語以外の言語で書かれた発表原稿や投稿原稿の添削費を支援。

RA成果報告ポスター作成支援

リサーチ・アシスタントに採用された博士後期課程の学生がアウトリーチ活動として、研究成果報告ポスターを作成する。その際、学会や研究会とは異なり一般向けに研究内容が理解しやすいポスターとなるように効果的な情報デザインや伝わるレイアウトなどのアドバイスや制作支援を行う。

外国人留学生キャリア支援（他部局と協力）

- ・I-HoP (Hokudai International Human Resource Development Program)が主催する留学生や海外からの研究者向けキャリアセミナー・イベントの周知。
- ・学位取得後も日本に残って就職活動や研究活動を継続する際の在留資格取得支援。

ポスドク支援

専門研究員制度（2019年度52人）

文学院博士後期課程修了者（課程博士の学位取得）の研究の継続を支援。研究を遂行するために必要な施設、図書、および設備を利用可能とし、積極的な科研費や学振特別研究員PDの応募を促す。

共同研究員制度（2019年度8人）

文学院で博士号（課程・論文）を取得後、研究職以外の職に従事しながら研究を継続する研究者を支援。科研費などの競争的外部資金の申請を可能にする。

出版助成（2019年度予算額150万円）

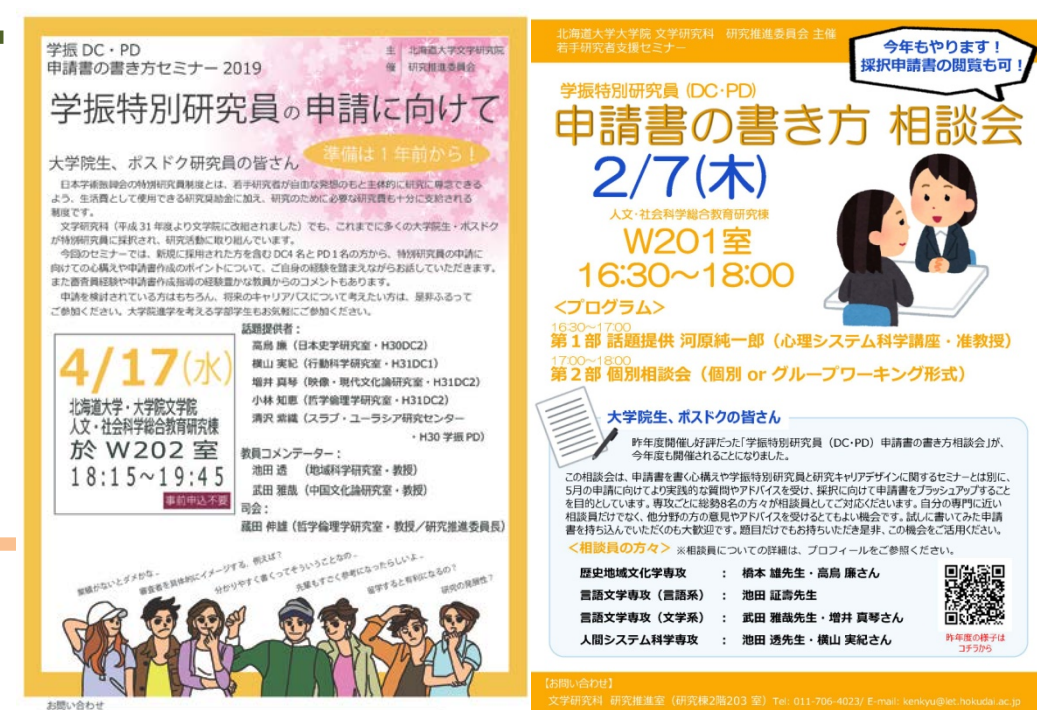
人文社会科学分野では、博士論文を毎年1件書籍化・出版することで、研究者としての第一歩を踏み出す分野もあるため、主に専門研究員を対象に、博論の出版を支援。



若手研究者支援（MC/DC/PD）

若手研究者支援セミナー

- ・日本学術振興会PD/DC申請書セミナー
- ・日本学術振興会特別研究員への申請を支援するため、人文・社会科学系の研究に的を絞った申請書の書き方セミナーおよび相談会を毎年部局独自に開催。特別研究員に採用された経験のある教員や若手研究者が、申請書の書き方のほか、研究の進め方、研究者としての心がまえ、キャリアパスなど幅広い領域について経験談やアドバイスを話題提供。セミナー受講者が後日特別研究員に採用され、こんどは自身が話題提供者となり、新しく申請予定の大学院生やポスドクにアドバイスをする好循環が生まれている。
- ・学振申請書の書き方セミナー（毎年春開催）：学振制度について初心者に分かりやすく解説。
- ・学振申請書の書き方相談会（毎年2月開催）：主に、数か月後の申請を目指す人に最後の一押しをする。既に申請書を書き始めている人は、セミナー後、申請書の草案や研究について具体的な助言を受けることが可能。
- ・若手研究者支援企画セミナー（毎年秋～冬に開催）
- ・学術出版：博士論文を単行本として出版したいと考えている博士後期課程の学生やポスドク、専門的な単著を出したいと考えている若手研究者向けに、学術専門書の出版を支援するセミナー。学術書の出版の基礎知識やハウツーを多くの著書がある教員や北海道大学出版会の編集者が情報提供。
- ・海外デビュー：若手研究者が、海外に研究の場を広げてアカデミックキャリアを積んでいくための「はじめの一步」を後押しするためのセミナー。国際学会で研究発表を行った大学院生や海外経験豊富な教員が留学や海外での学位取得などについて情報提供。
- ・キャリアパス：北大・文学院出身者によるアカデミックポストや民間研究機関・企業への就職などキャリアパスの多様化について話題提供。
- ・Advanced-COLA（Advanced Course of Liberal Arts Administration）（他部局と協力）
- ・人材育成本部と連携して実施。人文・社会科学系大学院生のステップキャリア形成支援セミナー。人文・社会科学系大学院（博士課程）修了後、アカデミア以外の産業界に就職したOB/OGが企業ならではの業務やその魅力を語り、人文・社会科学系の学位の意義についても議論。2019年度は8月9日に開催し、17人の学生が参加。



助成金・イベント情報配信（他部局と協力）

- ・専門研究員や共同研究員のほか、学術研究員、博士研究員、学振特別研究員PD・RPD、大学院生の希望者を対象に、メーリングリストで情報提供。
- ・部局が開催する各種セミナー
- ・他部局や外部で開催される若手研究者向けの各種セミナー
- ・若手研究者向けの助成金応募情報
- ・教員公募に関する情報



アカデミック・スキル・バスケット（若手研究者技能登録システム）

- ・英語翻訳、ポスター作成、イベント開催補助、文章校正などのスキルをもった若手研究者が登録。部局からの多岐にわたる依頼に応じてそのスキルを活かす制度。

成果

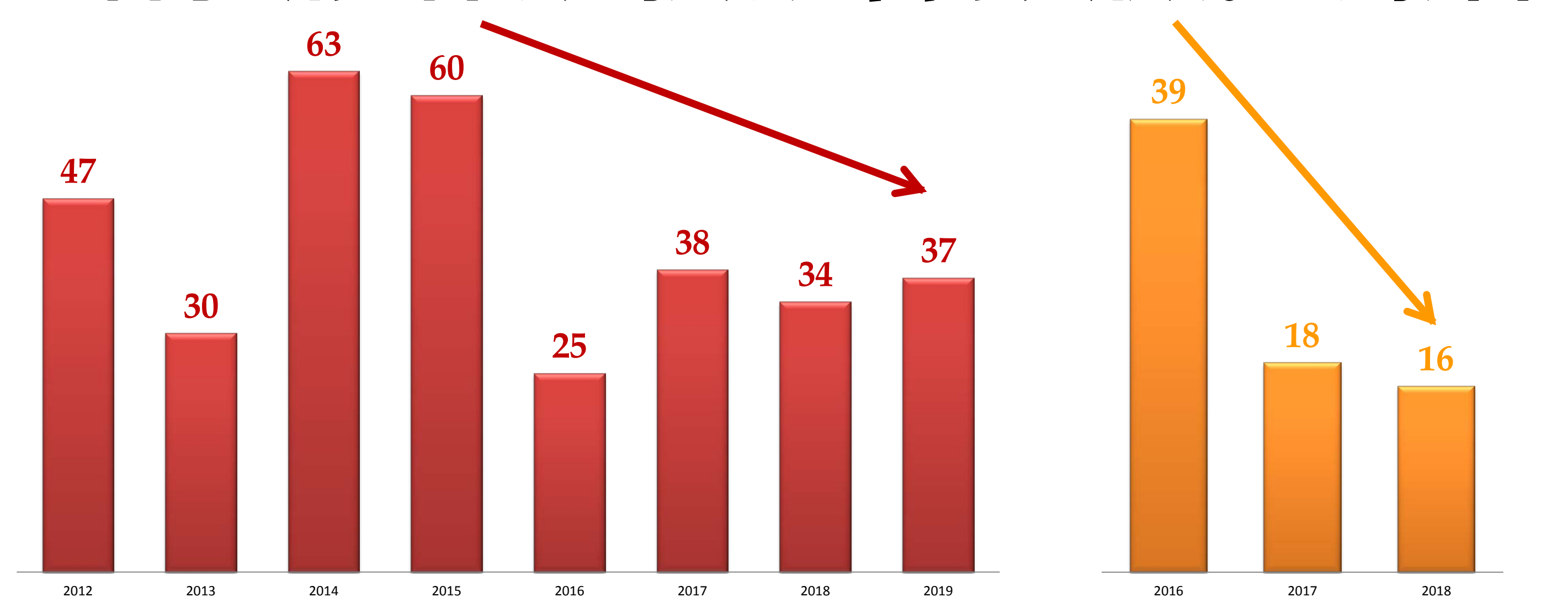
他部局との連携とそのメリット

- ❖人材育成本部との協力（キャリアパス多様化支援セミナーやイベント）
 - ◆Advanced-COLA
本学人文・社会科学系分野で博士後期課程を修了してアカデミア以外の職に就いたOB/OGから就職活動や実際の業務について幅広く話を聞く貴重な機会。
 - ◆キャリアマネジメントセミナー、赤い糸会&緑の会、プレゼンテーション演習、企業訪問など
多分野で活躍するOB/OGや企業の担当者と直接情報交換したりインターンシップに参加する機会。
 - ◆I-HoP
留学生や海外からの研究者を対象に、日本での就職活動や企業文化について英語で具体的な情報を提供。特に、英語で情報を得ることが難しい日本企業の面接でのマナーや履歴書の書き方、就業について知る機会。
- ❖他部局URA・研究支援室との協力（セミナー・情報交換）
特に理系分野や国際部局の主催で、大学院生・ポスドクに共通して有用なセミナーやイベントに参加できる。
- ❖大学力強化推進本部URAステーションとの協力（セミナー・イベント）
大学院生やポスドクのほか教職員向けのセミナーも多く、教職員を進路として考えるうえで参考になる。
- ❖部局単独では開催が難しい広く異分野にわたる講演者および参加者 ⇒ 新しい価値観と増える選択肢
- ❖専門や研究職に拘らず進路について考えと同時に、博士号の意義について再認識するよい機会になる。
- ❖学位取得後も日本に滞在し、研究活動の継続や就職を希望する留学生や海外からの研究者に対し、英語で情報を提供。 ⇒ 継続して存在していたが対応が難しかったニーズに対応。



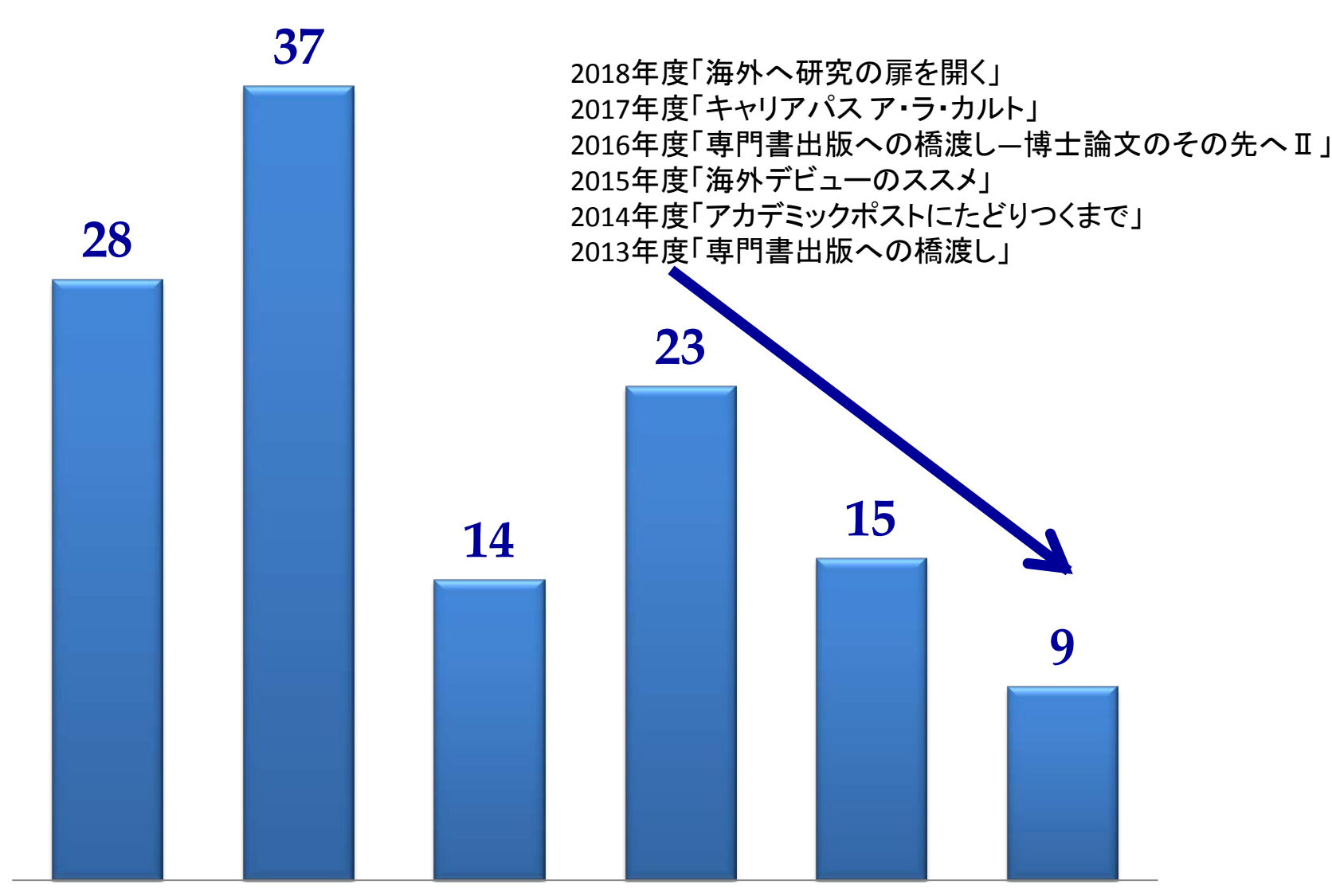
課題

セミナーへの参加者減少⇒情報提供の機会減少⇒若手研究者の選択肢・キャリア形成への影響



学振申請書の書き方セミナー（毎年春開催）

相談会（毎年2月開催）



若手研究者支援企画セミナー（毎年秋頃開催）

文学の若手研究者の他部局や全学、外部主催で開催しているセミナーやイベントへの参加数も少ない（8/9開催A-COLAは17人※文学院生は400名弱）

若手研究者にとって助成金の獲得や就職などの進路選択に有用なセミナーを開催。部局だけではなく他部局や全学、人文・社会科学系分野向けなど多岐にわたる内容のセミナーを開催しても、文学からの参加者が少ない傾向。結果として、支援対象者への情報提供の機会が失われている。アンケート結果等から、支援対象者へ十分に情報が伝わっていないことが分かった。セミナー開催日時だけではなく、有用性についての理解を促す周知が必要。

開催日時やセミナーの内容といった基本的な情報だけではなく、有用性を認識してもらえるように工夫する必要性。

提案

若手研究者への支援をよりの確かつ効率的に周知するための提案

- 過去に支援を受けたことのある支援対象者や部局外の研究支援者とのネットワーク形成
 - ・若手研究者のFacebookなどのSNSを活用
 - ⇒ 円滑・迅速な情報共有と支援対象者への情報発信の強化
 - ⇒ 部局URAの広報活動（ちらい配布・掲示、公式サイト情報掲載）以外の多様な情報源・ルートから対象者へ支援業務を的確かつ効率的に周知
 - ⇒ 認知度不足の改善につなげる
 - ・他部局のURAや研究支援担当との情報共有・連携を積極的に行う
 - ⇒ 分野を問わず若手研究者にとって有用だが部局では開催が難しいセミナーやイベントの情報を提供
 - ⇒ 支援内容の範囲を広げる
 - 更に、アンケートや反響を情報共有することで支援対象者のニーズにあった新しい支援活動の考案につなげる
- 今後の課題：メーリングリストやSNSに登録していない支援対象者をいかにネットワークへとりこむか。また、既にネットワークには登録されているが、セミナーへ参加しない支援対象者の参加を促す動機づけの考案。